

《特選》

ふつう

中央中学校 3年

よしだ
吉田 詩歩 さん

ふつうって、なんだろう。

めがねをかけているひとは、
めがねのある生活がふつう。

車いすに乗っているひとは、
車いすのある生活がふつう。

そのひとがうまれ育った地区は、
そのひとのふつう。

はだのいろがくろのひと、
はだのいろがきいろのひと、

はだのいろがしろのひと、
それぞれのひとのふつう。

おんなをすきになるひと、
おとこをすきになるひと、
それぞれのひとのふつう。

ふつうってなんだろう。

ひとのかずほど、ふつうがある。
ななじゅうおくの、ふつうがある。

だけど、ひとは

「ふつうじゃない。」
「それがふつうだよね。」
ふつうか、ふつうじゃないか、
気にする。

目の前にいるひとのふつうは、

じぶんのふつうとはちがう。

たくさん、たくさん、ふつうがあつまって
みんな、
みとめあえたらいいね。

《選評》

「人の数ほどふつうがある。七十億のふつうがある。」人はそれぞれ違っていたり前だと訴えている詩です。

社会(地域)はいろいろな「ふつう」が集まって成り立っています。確かに皆がそれぞれの「ふつう」を認め合って生きていけたらもっとすばらしい社会(地域)になるでしょう。改めて「ふつう」の定義を考えさせられるすばらしい詩です。